

2.4 千代田区春闘共闘の23春闘討論集会を開催

物価高騰を上回る大幅賃上げを何としても！

暮らしを壊す大軍拡と大増税、戦争に反対！

千代田区春闘共闘が23春闘について討論

千代田区春闘共闘が2月4日午後、水道橋の全水道会館で23春闘討論集会を開催しました。

現地参加21名、ZOOM参加8名で討論がされました。

春闘共闘水久保幹事が司会で進行。最初、「23年、新しい戦前にしないたたかいをしよう」と訴え、開会。

千代田区春闘共闘茂呂議長があいさつ

23春闘、賃上げ、大軍拡・大増税反対でたたかおう！

千代田区春闘共闘茂呂議長は、「安保3文書による敵基地攻撃能力の保有は専守防衛がないがしろにされ憲法違反は明らか。閣議決定だけで進められる、アメリカに先に約束するのは、日本の民主主義の破壊、独裁への道だ。大軍拡・大増税は労働者の生活を壊すものだ。反対運動で撤回させることが必要。23春闘では、物価を上回る賃上げが重要。財界や政府も賃上げを言うが、その水準が問題。春闘共闘の求める大幅賃上げ、最賃引上げ、年金引上げなどめざして春闘をたたかおう」と挨拶。



冒頭に春闘共闘茂呂議長が挨拶

春闘共闘里見事務局長が23春闘方針案を提案

千代田区春闘共闘里見事務局長が、23春闘方針案を提案。

「23年春闘では3月、4月に千代田総行動にとりくみ、さらに労働者の生活と権利を守り、大軍拡を止めさせ、平和と憲法を守り、コロナ禍から市民を守り、脱原発、気候変動・環境破壊を止めさせる取組みを進めていく」と提起。課題と要求について、以下のとおり提案。

- ① 物価高騰に対し生活を守る大幅賃上げを求める（国民春闘は10%の賃上げ要求）。時給1500円以上、誰でも8時間働けば生活できる最低賃金の実現。
- ② コロナ禍に対して国民の命と健康を守る政策を求め、社会的経済対策によって疲弊した市民の生活を守り、豊かな社会の実現を求める。
- ③ 「働き方改革」・労働法制改悪反対、非正規労働者拡大・雇用破壊を許さず、非正規労働者と正社員の均等待遇、非正規の正規化を求め、労働者・市民の生活と権利を守るたたかいを強める。
- ④ 市民と野党の共闘を強め、9条改憲を許さないたたかいを進める。「安保3文書」の撤回、大軍拡・大増税反対、特定秘密保護法廃止、戦争法（安保法制）廃止、共謀罪廃止、日米安保強化・敵基地攻撃能力保有・防衛力抜本的強化反対、辺野古埋め立て・新基地建設反対、高江へリパッド建設強行に抗議、横田基地をはじめとした全てのオスプレイ配備反対など憲法を活かし、平和、民主主義を守るたたかいを旺盛に

展開する。ロシアのウクライナへの侵略・戦争反対。

- ⑤ 消費税の減税・廃止、インボイス制度導入反対、年金・医療・介護など社会保障改悪に反対してたたかう。
- ⑥ 原発ゼロ、省エネルギー、再生可能エネルギーへの転換、東日本大震災・地震、台風、豪雨の被災者支援。
- ⑦ 政治とカネの問題、政治と宗教の癒着の徹底究明を求める。
- ⑧ 全ての争議の勝利解決を目指す。

討論 たたかっている状況の報告

討論では、ユニオンちよだ、元民法労、明治乳業争議団、JAL 争議団、ユニオンちよだの支部、地公、国公、法会労、全国一般などの職場から発言がありました。

「争議団からは、争議状況が報告され、解決のために引き続き支援の協力が訴えられた」、「法務行政の委託された窓口職場ではパワハラあり、組合でなんとかしてほしいと思っている」、「ユニオンちよだでは、退職勧奨、強要の争議が多い。悩みとしては、組合員とのつながりを持つこと、組合に定着させることが悩みである」、「全国一般からは、『美々卯』の争議が和解したとの報告があった」、「ユニオンちよだの支部は、今13人の組合員がいる、転職強要などもあり、組合で闘うことが重要だと思っている」、「区職労からは、一時金が引き上げられたが、この間は、下げられていてまだ回復されていないし、賃金水準も下がっている」、「国公職場からは、この間、取り組んできた不払い残業・超勤問題が前進している」などの発言。

討論のまとめを里見事務局長が行い、春闘共闘香取副議長が、「今日の討論集会で、学習し、頑張る気持ちになったのではないかと。23 春闘がんばろう」と挨拶し閉会しました。

★ 討論集会での講演

「日本の賃金は何故下がるか 新自由主義といかにたたかうか

春闘再構築へ」

討論集会では、23 春闘の情勢、日本の賃金に関わる問題などを学習しました。講演は、労働者教育協会副会長の江口健志（経済学、労働運動論が専門）さんに行っていただきました。

講演タイトルは、「日本の賃金は何故下がるか、新自由主義といかにたたかうか。春闘再構築へ」で、江口さんが熱く語りました。

江口氏は、賃金が30年間下がり続けているのはなぜかと、「一つはワーキングプアの増大、二つ目は、物価高騰が労働者の生活を直撃している。実質賃金の低下。三つ目は、大企業の内部留保の増大。分配率が大幅に低下」と指摘しました。

そして、なぜ賃金の下がり続けたのか、その構造的要因について、「新自由主義政策によって、大企業が



争議支援を訴える JAL 争議団

成長し、利潤を拡大していくために、その邪魔になる規制を撤廃、競争を促進し、構造改革が進められた。労働組合も抑圧され、査定・成果主義賃金により職場がバラバラにされた。その結果、賃金が抑制された」と述べました。

さらに、「95年に財界が『新時代の日本的経営』を発表。正規は3割、あとは非正規で十分。大企業におけるリストラ、500万人の正規労働者の非正規への置き換えが進んだ」ことで賃金総体が下がったといます。

また、日本の賃金下がった主体的要因、日本だけがなぜ、賃金が上がらないのかについて、「諸外国でも新自由主義が吹き荒れたが、賃金は上がってきた。しかし、日本では、資本側が強くなり、構造改革への抵抗力の弱さがあった。大企業労働組合はリストラに抵抗せず、労使協調へ、ストなし春闘が定着した」結果だといいます。

岸田政権について、「今、新自由主義を継続させているのが岸田政権である。岸田「構造的賃上げ」とは、リスキリング（再教育・訓練によるスキルアップ）によって労働生産性を引き上げる、それを原資として賃上げをはかる。リスキリングと労働移動の円滑化を進めるもの」といい、労働者全体の賃上げにはつながらないと指摘しました。

そして、「安保三文書により『日本の安全保障政策の大転換』で大軍拡宣言を行い、労働者・国民にしわ寄せするものである」といい、反対運動が求

められていることを強調しました。

さて、どうたかうかについて、江口氏は、「賃金と社会保障を上げて、人間らしく暮らせる社会をめざそう」と訴えました。

「アベノミクスを継続する岸田政権の矛盾、日本経済の衰退・停滞、円安・物価高、大企業だけが儲かっている、岸田政権の支持率低下が続いている、根底には、新自由主義の行き詰まり、大企業中心の成長経済の限界がある」と変えられる情勢にあると指摘しました。

そして、江口氏は、労働組合の重要性を強調。「賃金は、生計費が原則であることを要求する、非正規でも生活できる賃金の保障を求めていく」、「いかに階級的な力を培うか。仲間づくり、競争ではなく競い合いへ、共同へ」、「要求からの出発、職場の連帯、『あつまる』」、「団体交渉、ストライキを打てる組織づくりをする。職場を産別、地域が支える取り組みを」と訴えました。

「最賃1500円運動の意義がある。非正規労働者の労働条件改善。広範な低処遇の正規労働者の賃上げにも波及する。エッセンシャルワーカーにみあう賃金・労働条件を。専門性を支える賃金を。社会的有用労働と、それを支える賃金を」求めていくことが重要だとしました。

最後に、「新自由主義を乗り越える社会を展望」し、「憲法9条と25条を結合する労働運動、地域の運動が求められている」と訴えました。（講演の詳細は次号でお知らせします。）

■ お知らせ ■

2月20日（月）午後6時から区労協事務所（杉山ビル2階）で

千代田区春闘共闘の単組代表者会議を開催。23春闘方針案を確定し、春闘の取り組みについて、協議します。併せて、3月9日（木）予定の千代田総行動の準備も行います。ご参加ください。

千代田区職労

新春旗開きコンサート&即売会を開催



留場委員長が

「平和と賃上げ求めてたたかう」と挨拶

で頑張ってもらい、人事委員会勧告に反映させてもらいたい」と訴えました。

藤本退職者会長は、「年金生活者は、この物価高で大変。年金も支給額が減っている。現役の労働者とともに頑張る決意」と挨拶。

区当局からは、新しく就任した坂田副区長が出席。「区民のための区政推進にはよい人材が必要。最近、区に入っても辞めていく人が出てきている。人材を獲得するには、賃金・労働条件の改善も必要だ。そのためにも組合に頑張ってもらいたい」と挨拶しました。

挨拶の最後に、23区の区職労の連合体である特別区労働組合連合会の中條副委員長が、「特別区職員の賃金は、国や他自治体に比べて低くなっている。賃金水準改善のために、春闘をたたかい、賃金確定闘争で奮闘していきたい」と挨拶しました。

その後、新春コンサートを開催。オープニングでは、友情出演で全農林OBの原田富晴さん（全労済中南部支所千代田地区委員会の副常任委員長）が、ギターを奏でました。

コンサートは、三味線、チェロ、バイオリンの弦楽三重奏。演奏者は、区職員でチェロの安沢知志さん、バイオリニストの阿部志織さん、三味線奏者の佐藤さくら子さんでした。安倍さんと佐藤さんは、プロの演奏者で国内外で活躍されています。



野菜、争議団物資、コーヒー豆の即売会

生活改善と平和を願って

1月27日、千代田区職労は、区職労退職者会とともに、3年ぶりに旗開きを開催。まだ、東京は、コロナ感染の影響があるとして、飲食無しで開催しました。

冒頭、留場委員長は、「ロシアのウクライナ侵略を機に日本でも大軍拡・大增税をやろうときな臭くなってきている。平和が大事だ。コロナ禍、また、物価高騰の中で、組合員の生活は悪化している。物価高騰を上回る賃上げは、必要だ。民間春闘



三味線、チェロ、バイオリンの弦楽三重奏を楽しむ

情熱大陸のテーマ、涙そうそうなど8曲が演奏されました。生演奏の迫力があり、心地よさが伝わりました。今は、平和でなによりと思う次第でした。

参加者全体では97人で、23年のたたかう団結を深めました。仕事終了時からは、旗開きに参加できない組合員も参加できるように、野菜、争議団の物資、コーヒー豆の販売などを実施。組合員にお買物券を配布し、買っていただきました。野菜は値上がりしているので、うれしいと声が出ていました。

(千代田区労協事務局長 小林秀治)

*千代田区労協通信バックナンバー/http://www.chyda-kr.org/kuroukyou_news2020.htm

※皆さんからの投稿、感想・ご意見などお待ちしております。千代田区労働組合協議会